

令和 元年 6 月 23 日現在

機関番号：23102

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）

研究期間：2016～2018

課題番号：15KK0126

研究課題名（和文）日欧貿易摩擦の交渉史 - ECの通商交渉戦略と日本の対応1970 - 86年（国際共同研究強化）

研究課題名（英文）Japanese-European Trade Negotiations and Conflicts; EC's trade negotiation strategy and Japan's response, 1970-1986(Fostering Joint International Research)

研究代表者

鈴木 均 (Suzuki, Hitoshi)

新潟県立大学・国際地域学部・准教授

研究者番号：20554348

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 7,800,000円

渡航期間： 12ヶ月

研究成果の概要（和文）：助成期間中は現地調査に専念することができ、研究発表を積極的にを行い、多くの研究成果を上げることができた。英文論文（単著・査読付き）を一本、英文論文（共著・査読付き）を一本、英文の書評論文を一本、英語編著への寄稿を一本、研究成果として上げることができ、研究は順調に進んだ。また英文単著の出版契約も結ぶことができ、引き続き研究成果を挙げる所存である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日米関係に偏重しがちな国際政治経済・経済外交の分析に対し、日欧関係の歴史が示す独自性を発見し公開することができた。自動車等、日本が輸出を得意とした分野のみならず、劣位に苦しんだ航空機産業の事例と、日本の農業市場開放という、新しい分野に視野を広げることができた。特に英語で成果を積極発信できた意義は大きく、今後共同研究を国際的に展開するスタート地点を築くことができた。研究成果は引き続き内外で積極発信する。

研究成果の概要（英文）：During the research period I was able to publish two articles to a peer reviewed journal, one book review article, and a chapter contribution to an edited book. A publishing contract of a monograph was also signed with a publisher. The research project was fruitful with achievements.

研究分野：欧州統合史

キーワード：欧州連合 日本 通商交渉 産業協力 欧州統合史

1. 研究開始当初の背景

日系企業がイギリスに現地工場を創設した事例は、現地ではそれほど新しい研究テーマではない。当初は日系企業の進出を外敵の侵入のごとく警戒したため、一定程度の分析がなされている。しかしそれは、特に従来の慣行を変えざるをえなくなった現地の労働運動の分析 (Garrahan & Stewart, 1992; Beale, 1994) や、日本に批判的な世論を研究対象としてきた。日系企業のみが研究対象となっており、その進出がイギリスの対 EC・EU 外交に影響を与えた視点が欠けており、日本語単著はこれをテーマにした。そのため、英語訳を出版するための独自性があり、現地で加熱する「EU 離脱論」に対しても一定の影響を与えるものと予想される。日系企業が EC・EU への最初の進出拠点としてイギリスを選んだ事実は、イギリス人が自覚する以上に大きい。当時首相だったマーガレット・サッチャーが EU 懐疑論者だったことも手伝い (Campbell, 2011)、このような視点が欠落している。

2. 研究の目的

研究の主題は、現採択研究を踏襲し、日欧通商交渉とし、実証研究を行う。研究方法についても、歴史実証研究を継続して行う。ただし研究対象に現在進行中の日・EU・EPA 交渉を加える。これに従い、研究手法においては、交渉関係者への現地インタビューを積極的に増やす。特にブリュッセルとロンドンでの調査、分析、人的交流の拡大に努める。ロンドンでは日本語単著 (業績 1) の英訳版の出版を目指すため、現地でさらなる史料収集に加え、関係者へのインタビューも行いつつ、英語版に相応しい内容の充実を目指す。またブリュッセルは、日・EU 交渉が行われている舞台でもあるため、交渉関係者へのインタビューを積極的に行う。史料収集もこれまでと同様に行い、イギリス以外の国を研究対象に含めることができるようにし、事例の比較ができるよう、歴史実証研究のさらなる充実を図り、英語編著の編者として出版を目指す。

3. 研究の方法

史料収集、関係者へのインタビュー、ワークショップや学会への参加を行った。日本語単著の英語版の出版に必要な調査、分析、出版社との交渉、および他の研究者との討論を行った。同時に、歴史実証研究だけではなく、EU 離脱を問う国民投票も行われたため、これが日・EU・EPA 交渉に与えた影響や、イギリスに現地工場を開設した日系企業の活動に与えた影響を分析した。滞在中に以下史料収集を行った。

ロンドン、イギリス政府史料館 (The National Archives)

コベントリー、ワーウィック大学図書館内、近代史史料館 (Modern Records Centre)

ブリュッセル、理事会史料館 (Archives of the Council of the EU)

ブリュッセル、欧州委員会史料館 (Historical Archives of the European Commission)

4. 研究成果

助成期間中は現地調査に専念することができ、研究発表を積極的に行い、多くの研究成果を上げることができた。英文論文 (単著・査読付き) を一本、英文論文 (共著・査読付き) を一本、英文の書評論文を一本、英語編著への寄稿を一本、研究成果として上げることができ、研究は順調に進んだ。また英文単著の出版契約も結ぶことができ、引き続き研究成果を挙げる所存である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者は下線)

[雑誌論文](計 3件)

1

Hitoshi Suzuki and Izuru Makihara, "Japan-EEC/EU Relations, 1970-2005: Re-Emergence as Strategic Partners in Trade and Environment." *Journal of European Integration History*, Vol.25, No.1, 2019, pp.23-35. (牧原出との共著) 査読済み、近刊予定

2

Hitoshi Suzuki, "Book reviews. Wilfried Loth, *Building Europe: A History of European Unification*, Walter de Gruyter, Berlin/Boston, 2015, 485p." *Journal of European Integration History*, Vol.23, No.2, 2017, pp.307-310. (単著) 査読あり

3

Hitoshi Suzuki, "The New Politics of Trade: EU-Japan." *Journal of European Integration*, Vol.39, No.7, 2017, pp.875-889. (単著) 査読あり

[学会発表](計 3件)

1

Hitoshi Suzuki, "Post-Brexit EU and Japan: Reduced investments and industrial cooperation with Britain but increased commitment in security issues." Paper presented at the Workshop, *EU External Relations in the post-Brexit EU*. University of Strathclyde,

Glasgow, 4 October 2018.

2

Hitoshi Suzuki, "Japan's Rise And 'Fall' : From trade conflicts to role model and strategic partners." Paper presented at the Conference, *Europe and East Asia since 1945: an historical survey*. University of Groningen, 14 June 2018.

3

Hitoshi Suzuki, "Economists And Corporate Experts in Japan-EC Relations; Nissan's first factory in Europe, the SEA, and the road to the single market." Presentation at the conference, *Ex post Europe. Experts and politics on Science and Technology in Europe: a problem of democratic legitimacy and international reliability?*, University of Padua, 3 February 2017.

〔図書〕(計 1件)

Hitoshi Suzuki, "How British Corporate Interests and Their Views on Japan Were Transferred to Brussels. The Case of Nissan Sunderland Plant and the Single European Act. (単著)" In: Christine Bouneau, David Burigana (eds.), *Experts et expertise en science et technologie en europe des années 1960 à nos jours. Société civile organisée, démocratie et prise de décision politique*, Brussels: P.I.E. Peter-Lang, 2017, pp.69-83.

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

研究協力者

〔主たる渡航先の主たる海外共同研究者〕

研究協力者氏名：Antony Best

ローマ字氏名：Antony Best

所属研究機関名：London School of Economics and Political Science

部局名：Department of International History

職名：Professor

〔その他の研究協力者〕

研究協力者氏名：井川 佳実

ローマ字氏名：Yoshimi Igawa

所属研究機関名：University of Glasgow

部局名：Adam Smith Business School

職名：PhD Researcher

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。